

農業後継者育成基金事業

令和元年度農大就農促進対策助成事業

事業主体名 鹿児島県立農業大学校

1 目的

本校の入学者は、経営基盤の整っていない兼業農家、非農家の割合が増加しており、卒業後に就農するためには、農地の確保、機械・施設の取得などに多額の資金や期間を要することから、本校で学習した専門的な知識技術を自らの営農として生かすことができない学生も少なくない。

今後、就農・就職相談会等への参加を通じ、早い時期から農業法人の理解促進を図り、非農家出身の学生を主とした雇用就農への意欲喚起及び就農促進を図る。

そこで、企業的な農業経営を行っている農家や農業法人の取り組みについて、経営者の講話や現地視察を通じて、理解促進を図り、就農対策の一助とする。

2 実施状況

(1) かごしま就農・就業相談会での相談活動

1月開催で2年生の進路は決定しているため、参加者は少なかったが、法人との直接面談により具体的に内容が把握でき、進路選択に当たっての貴重な情報収集の場となった。

(2) 先進農家等による講話 山床貴憲氏(農学部対象)

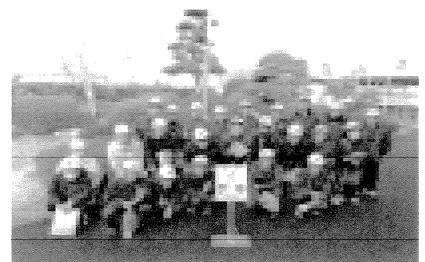
山床氏は、農大を卒業後、有限会社山床製茶へ平成12年に就職し、平成30年に代表取締役社長に就任。荒茶委託販売と小売販売をバランス良く行い、効率的な機械化体系や規模拡大を進め、K-GAPの取得など先進的な経営に取り組んでいる。

学生は、まずしっかりと仕事を覚え、次に改善策はないか考え行動すること、新しい事へのチャレンジ、人のつながりを大切にするなど、実体験に基づいた話に共感を持ったようであり、有意義な研修となった。



(3) 先進地等の視察研修

市場等や肥料・農薬工場を見学することで、野菜類の流通の仕組みや販売対策への取組み、肥料や農薬の製造方法や効果等について知識を深める。また、先進的な農家を視察研修することによって野菜生産の栽培技術や施設装備等について理解を深めることができた。



(4) 地域との交流

12月7日土曜日に、農大キャンパス内で農大祭を開催した。

当日は、学生が生産した農畜産物やそれらを使った加工品の販売、模擬店の他、センター内でぐるり一周バスツアーなどを行った。

朝早くからたくさんのお客様で行列ができるなど、約4,000人の方々にお越しいただき、盛大に開催することができた。



3 今後の課題、取り組み

今後も引き続き、本県の農業を担う人材の育成・確保を図るために、本事業を活用し、就農促進のための取り組みの充実・強化を図る。